

斎藤実盛の像

斎藤実盛（1111～1183年）は、現在の埼玉県を治めていた伝説の武将です。実盛公は、1179年に妻沼聖天山歓喜院を創設しました。境内の斎藤実盛公像は、白髪を染める構えで鏡と筆を手に持つ姿で表現されています。像の隣に設置されているプレイヤーのボタンを押すと、実盛公の人生について子どもたちが歌った昔の歌を聴くことができます。再生機の隣にある金属プレートに、その歌詞が刻まれています。

実盛公は、皇族の遠い親戚にあたる源氏の家臣でしたが、後に宿敵の平家へと忠誠の対象を乗り換えています。両家は、12世紀に、朝廷と日本の支配権をめぐる戦いを繰り返しました。歴史的説明によれば、源氏軍が1155年に平家に敗れた際、実盛公は、源氏の跡継ぎである木曾義仲（よしなか）（1154～1184年）を見つけて殺すよう命じられました。しかし、実盛公は、若き少年だった義仲を保護し、義仲は後に源氏家を率いる武将になっています。

両家の敵対意識は深まり、全国を巻き込むことになる源平合戦（1180～1185年）へと繋がります。源平合戦が勃発した頃、実盛公は70代でした。源平合戦では平家軍として戦いましたが、出陣前に、自分を若く見せるために白髪を黒く染めたと言われています。篠原の戦い（1183年）で、実盛公は義仲軍の部将により殺され、その首が義仲のもとへ持ち帰られました。当時、戦で討ち取った敵の頭を持ち帰り、それを洗って身元を判定し、大名に見せるのが通例でした。実盛公の髪から墨が流れ落ちると、義仲は、かつての命の恩人を打ち取ってしまったことを知り、悲しみに打ちひしがれます。

源氏は最終的に平家を打ち破り、鎌倉幕府という最初の軍事政権を樹立し、1185年から1333年まで日本を支配しました。